

氏名 村 上 泰 治

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 甲 第 436 号

学位授与の日付 昭和52年 3 月31日

学位授与の要件 医学研究科外科系外科学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 心筋局所冷却法に関する実験的研究
とくに左室肥大の局所冷却について

論文審査委員 教授 田 中 早 苗 教授 西 田 勇 教授 小 坂 二度見

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

開心術中虚血にさらされた心筋を保護する目的で心筋局所冷却を行い、さらに虚血に弱いといわれる大動脈弁疾患にみられる左室肥大心にこの方法を用い、正常心と比較して以下の知見を得た。

1. 常温では30分までは心筋保護を行わなくても心筋は虚血に耐えられる。常温で60分を越えると著明な心機能の低下を来たす。
2. 正常心に局所冷却を行うと60分までは虚血に耐えられ、心機能の低下を来たさない。
3. 左室肥大心に局所冷却を行い60分間虚血状態とすると著明な心機能の低下を来たす。これは肥大心のため心筋が均等に冷却されなかったためと考えられる。
4. よって心筋局所冷却法は開心術中弛緩静止した心筋と無血手術野を得るのに簡単で有用な方法であるが、大動脈弁疾患にみられる左室肥大心に対しては、心筋を均等に冷却する工夫が必要である。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

心筋局所冷却法に関する実験的研究である。開心術の際の阻血による心筋障害を、局所冷却によって抑制し、特に左室肥大心に対する局所冷却については特別の工夫を要することを解明した点において価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。